

## 伊孚九筆離合山水圖 解説

三重 長谷川次郎兵衛氏藏

伊海、字は孚九、荜野、漚川、也堂等と號し、孚九はまた桴鳩とも署した。吳郡の商賈にしてその長崎に來朝したのは享保五年二月を初度とし、享保十一年、或は更に寶曆九年等にもその事があつたと云ふ。當時の來舶畫人中では最も早い一人であると共に、その往來が享保寶曆間四十年に近い間に涉つてゐたとすれば、度數も亦幾何に登つたかを測り難い。

彼が我國に南宗畫風を傳へた人としての聲名、殊には大雅が尸祝した人としての聲名は同時の大家沈南蘋を凌ぐものすらある事は云ふまでもないが、是等の來舶畫家の多數が商賈の餘技を以て我が好稱に應へたに過ぎなかつたのも亦事實で、彼野呂介石をしてすら「孚九ノ本邦ニ至ルハ南宗畫家ノ手代ヲ差越セルヤウナルモノ」繁緒  
脱話と云はしめたのは蓋し止むを得まい。吾人は寧ろ早く刻苦自ら途を拓きつゝあつた我が南宗の先覺者達がよく之等を利用してかの大業を

伊孚九筆 離合山水圖款印（原寸）

三重 長谷川次郎兵衛氏藏

成し遂げた功を嘆ぜねばならぬのであらう。

唯孚九がかゝる來舶畫人の間に在つては最も蕭散淡雅の致を得てゐた人であつた事も正に衆評の歸する所と云ふべきか。此圖、さまで格調が高いと云ひ得ないまでも、敢て規格に泥まざる清朝文人畫風の一態を得、冲淡な墨調を疊んで僅かな草汁、藍、赭を濺ぎ、之に數點の青綠を加へて生新なる圖を成す。圖上に題する二詩も恐らくは彼が得意中の作か。款記に「山唐」と署したのは吳郡の山塘水、即ちその出自に因んだものかと思ふ。

我國に於て彼の跡を慕ふ事最も多きは大雅を措いては玉洲、介石等を推す。特に介石は彼の畫蹟を録する事屢であるが、就中かの四碧齋畫話本誌第七  
五號所載に次の一話を見る。即ち松坂の某なる人、十五金を以て孚九の三幅一景の圖を購つたが、程なく之を賣散するの止むなきに至つた。同郷の長谷川氏は是を憐み、原に倍して三十金を以て之を收めた。介石は甚だ之を美とすると共に、後屢々此圖に倣うて三幅一景の畫を作つたと云ふのである。恐らくは本圖に當ること疑なかるべく、是が今なほ傳へて長谷川家に在る事と併せて、また一佳話たるを失はないであらう。

## 毘沙門天像 解説

山形 上杉神社藏

二邪鬼を踏まへて反身に立つた全身の生氣が畫面一杯に溢れて悠容せまらざる態に先づ心惹かれる。一邪鬼の逞ましき裸身の後構への姿も面白く、他の邪鬼のつぶらな眼を光らせて居る形には一層の興趣を覺える。毘沙門天の顔貌の飄逸にして而も威を失はぬ描出、ふつくりした兩手の運筆等に至れば遂に嗟嘆の聲を發せずには居られないであらう。筆鋒のき

毘沙門天像  
細部

山形  
上杉神社藏



いた此等の肉線描法に加へて衣線の細緻と文様、色彩の纖美と互に其の妍を競ふかの如くである。

文様の二三を舉ぐれば七寶繋ぎ、立涌、格子等の截金、寶相華、牡丹、蓮花等の彩文、是に交ふるに龜甲繋ぎ、七寶繋ぎ等の銀截箔何れも纖細精確な技巧を驅使する。衣線の肉線に比して細緻なるは特に注目すべく、且つ衣文が没骨風の仕上げに成るが故に彩色、文様が浮き上つて一種の立體性を有する點が著しき特長であらう。彩色は概ね穩雅の風を旨とし鮮麗に互らず、殊に袴の彩色を胡粉地に銀截箔とした手法は清楚な趣致を表して却々に捨て難い。

彩色、截金文様等の趣好は何れも藤原時代の行き方に則るものであり、相好に示さる、描法亦當代を下らない。但、銀截箔の使用は概ね當代も時下つて見らるゝものであると同時に運筆の態より推して藤原後期の作と鑑すべきであらう。

凡そ毘沙門天像の造顯は彫刻に比すれば繪畫は甚だ少きに居る。世に知らるる遺品も數指を屈するに過ぎない。本誌第六十四號に載せたる知恩院所藏の一幀の如きその優品の一ではあるが本圖に比すれば稍遜色なきを得ない。僅か堅三尺、横一尺半の小幅にこれ程の横溢せる生氣と、精細なる裝飾美とを盛り上げた本圖の手法は時の新古と、題材の種類とを問はず第一流に位せしむべきものであらう。

## 美術研究所時報

美術懇話會は十二月十六日午後五時より上野公園精養軒に於いて、本年度總會を開催、正木理事長より會務報告あり、引續き晚餐に移り、尙午後七時より工學博士伊東忠太氏の「熱河に於ける建築に就いて」と題する興味ある講演があつた。又講演終了後伊東氏の令息にして滿洲國民生部熱河古蹟調査所にあつ

て現地保存の任務に盡瘁せらるゝ伊東裕信氏より、同氏等の撮影された十六ミリ映畫によつて、熱河承德に於ける代表的建築を具體的に説明される所があり、裨益される所多く、盛會であつた。

## 寄贈圖書

渡邊華山	一冊	淺井岩次氏
南蠻雅陶	一冊	中川伊作氏
道元禪師研究(其一)	一冊	伊藤慶道氏
籌畚學志	一冊	輔仁大學圖書館
爽籟館欣賞(第二輯)	一帙	阿部孝次郎氏
東方學報 東京第十冊之一	一冊	東方文化學院
寒葉齋綾足先生建墓記念拓本自畫像	一軸	寒葉齋綾足建墓會
濱田先生追悼錄	一冊	京都帝大考古學室

Japanese Art (the University Prints, Series O, Section III)

Columbia University Prints

## 寄贈雜誌

史苑	一三〇一	美術育	一五〇一一
國寶	二〇一一	美術時報	四八五
興亞書報	一〇五、六	三田評論	五〇六
燒もの趣味	五〇一一	新建築	一五〇一〇
白晝	一三〇九	文藝學	七〇一一
塔影	一五〇一〇	思想	二二〇
みづゑ	四一九、四二〇	現代美術	七〇二
美術世界	三〇一二	美術殿	七〇一一
最高美術	九〇一一	學校美術	一三〇一一
教育美術	五〇一一	畫說	三五
文部時報	六六九、六七〇	畫幣	二四八
アトリエ	一六〇一二	畫室	六〇一一